



## 仙台防災未来フォーラム 2023 において災害レジリエンス共創センターシンポジウム 「災害レジリエンスの共創にむけて」を開催しました（2023/3/4）

テーマ：災害レジリエンス、デジタルツイン、防災総合知、産学官連携

会場：仙台国際センター展示棟・展示室3-B（ハイブリッド開催）

URL：[https://irides.tohoku.ac.jp/event/annual\\_symposium/houkokukai/memorial2023.html](https://irides.tohoku.ac.jp/event/annual_symposium/houkokukai/memorial2023.html)

2023年3月4日（土）仙台国際センターにて、仙台防災未来フォーラム2023が、「ここから広げる 防災が身近な世界と未来」をテーマに開催されました。災害レジリエンス共創センターは、会場内において13時から14時30分まで「災害レジリエンスの共創にむけて」と題しシンポジウムを開催し、昨年のセンター発足から、多様な主体との連携・共創、および共創研究プロジェクトにおいて取り組んできた活動と今後の展望について、4つの研究領域の領域長から発表を行いました。

発表では、災害レジリエンスとは災害過程の分析を通じて被災した社会が速やかに回復するための方策やひとりひとりの多様な幸せ（well-being）を実現するための「総合知」を探求する研究であること、被害の予測から命を守る予測へと発展し人的被害ゼロを目指す「災害デジタルツイン」の開発状況について、およびリアルタイム津波浸水被害予測システムの内閣府での運用例などを紹介しました。今後の展開として、モバイル空間統計による人口推計データを活用した社会現象としての災害過程のモデル化、行動パターンの予測や避難行動に関する研究へとつなげていくことを報告しました。最後に、研究成果を市民のみなさまにわかりやすく使いやすいシステムとして社会実装する試みについてお伝えしました。

本シンポジウムには、学内外の研究者をはじめ、一般市民、オンラインでの参加者を含め100名近い参加をいただきました。当センターでの活動、研究成果をひろく一般市民のみなさまにもご報告する機会となりました。

### 1. 開会あいさつ

江川 新一 教授（災害レジリエンス共創センター長）

### 2. 活動報告（各20分）

#### (1) 「災害レジリエンスの数量化と災害デジタルツインの構築」

越村 俊一 教授（災害レジリエンス数量化研究領域長）

#### (2) 「人のレジリエンス：強靭さとしなやかさ」

江川 新一 教授（ヒューマンレジリエンス研究領域長）

#### (3) 「人口の動きから社会のレジリエンスを読み取ろう」

奥村 誠 教授（災害情報キュレーション研究領域長）

#### (4) 「レジリエンス共創は社会実装できてなんぼ」

小野 裕一 教授（災害レジリエンス共創領域長）

### 3. 閉会あいさつ

栗山 進一 教授（災害公衆衛生学分野）

司会進行 中鉢 奈津子 特任准教授（広報室）

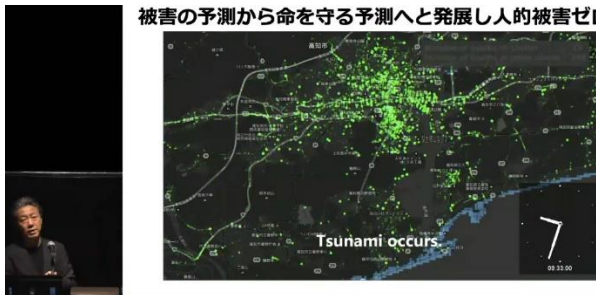
文責：武田百合子（災害レジリエンス共創センター）  
（次頁へつづく）



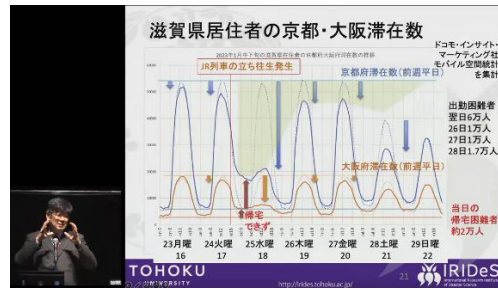
江川センター長による開会のあいさつ



会場の様子



越村領域長による活動報告



奥村領域長による活動報告



小野領域長による活動報告



栗山教授による閉会のあいさつ